

海燕社

の小さな

映画会 2024

8/10 (土) 14:00~

沖縄県立博物館
美術館 講堂(3F)

受付 13:15 開場 13:30 料金 1,200円(予約制) 当日 1,500円
予約(海燕社) ☎ 098-850-8485 / ✉ mail@kaiensha.jp

※小中高校生は先着10名まで無料

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE

後援：沖縄県 那覇市



予約用QR

アンコール上映

南島残照

女たちの針突(ハジチ)

- 沖縄・宮古諸島のイレズミ -

製作 ヴィジュアルフォークロア / 1984年撮影 / 2014年製作 / 64分



©Visual Folklore Inc.

沖縄・宮古のおばあたちの手に刻まれたイレズミ〈ハジチ〉。かつて南は与那国島、北は奄美大島・喜界島まで南島女性の象徴として見られたが、明治時代の「文身禁止令」以降、次第に廃れていった。1984年、沖縄本島と宮古諸島にハジチを伝える女性を訪ね歩き88歳から99歳までの女性22人に自らのハジチについて語ってもらった。激動の世を生きた女たちの人生が、深く刻まれたシワとともに、饒舌な島言葉で語られる。南島のイレズミ文化の消滅直前の貴重な記録である。

【監督】北村皆雄

【撮影】柳瀬裕史・北村皆雄

【制作】北村皆雄・三浦庸子

【監修】名嘉真宜勝

【琉歌】嘉手刈林昌

【わらべ歌】糸満市西崎小学校合唱部 [採譜・編曲] 杉本信夫

【撮影助成】公益財団法人トヨタ財団

その祈りは

わたしたちに刻まれた深い記憶

アンコール上映

イザイホウ

監督 野村岳也 / 製作 海燕社 / 1967年 / 49分



© 海燕社

沖縄県南城市の久高島は、昔から神の島として知られ、年間三十に及ぶ神事が、島の暮らしに組み込まれており、今でも島人によって厳粛に受け継がれている。この久高島最大の神事が、十二年に一回午年に行われる「イザイホウ」である。

「イザイホウ」は、30歳から41歳の島で生まれ、島に生きる女が神になる神事で、四日間の本祭を中心に一ヵ月余の時をかけて行われるのである。島の女たちは、ノロを中心に神女組織を構成して島の男たちや島の暮らしを守ってきた。

これは、1966年の「イザイホウ」の記録作品である。

「イザイホウ」はその後1回行われ、1978年を最後に消滅した。多くの祭や神事が時代の波とともに形骸化し観光資源に変身したケースの多いなかで、「イザイホウ」は厳粛な神事の心を失わず、生きたまま消え去ったのである。

「イザイホウ」はまた、ドラマチックな構成を持ち、歌や踊りの原点ともいえる内容を有し、学問上でも価値の高い稀有の神事であった。今は、この記録映像で、その魅力の一端を感じてもらいたいのである。(野村岳也)

上映作品、上映日は都合により変更することがあります。詳細は、海燕社のウェブサイト (<http://www.kaiensha.jp>) や SNS にてご確認ください。

古書店 うみつばめ

問合せ ☎ 098(850)8485 / メール ✉ mitubame@gmail.com

海燕社のウェブ古書店うみつばめ。年中無休で開店しています。こだわりは、画家 石垣克子デザイン、オリジナルブックカバー(単行本・新書・文庫本)とオリジナルしおり(3種類)です。いずれかをご購入の本におつけします。本とご縁がありますように。



ウェブ古書店